

都立鷺宮高校定時制の募集停止時期の延期と

第3学区の夜間定時制高校を希望する生徒の受け入れ枠確保を求める陳情署名

2005年 11月

東京都議会議長 川島 忠一 殿

<陳情事項> 平成19年度「中野地区チャレンジスクール」「杉並地区昼夜間定時制高校」の開校と同時期に募集停止が予定されている鷺宮高校定時制について、募集停止時期の延期を検討するとともに、第3学区の夜間定時制高校の生徒募集については、受け入れ枠確保のため十分な対応措置を講ずるよう東京都教育委員会に要請していただきたい。

<陳情理由> 東京都教育委員会は平成14(2002)年10月、「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」を策定しました。第3学区(中野区・杉並区・練馬区)については、10校ある夜間定時制高校のうち8校(富士定・鷺宮定・四谷商定・荻窪定・杉並定・大泉定・石神井定・四商定)が募集停止の対象校になっております。募集停止年度はまだ正式発表されてはいませんが、昼夜間定時制高校とチャレンジスクールが開校する平成19年度までに、8校全ての対象校を募集停止にするのではないかとされています。

鷺宮高校定時制は現在1・2年ともに定員ぎりぎりの30名近い生徒が在席しており、様々な事情や経歴を持った多様な生徒が通って来ています。問題行動への対応や補習・クラブ指導等、学級減で専任教員が減らされた中、教職員は全力で生徒指導にあたっています。家や職場の近くにあつて、家庭的な雰囲気のある夜間定時制高校だからこそ通えるという生徒も多くいます。こうした生徒の学習する機会を保障するためには、「既に決まった計画である」「夜間定時制高校がなくなっても、新たに出来る『新しいタイプの学校』で十分受け入れ枠がある」という机上の論理だけで一律に募集停止にするのではなく、該当校関係者や中学校現場、地域の意見を十分聞くことが必要です。鷺宮高校定時制では、教職員、保護者、生徒、OBなどから、「希望する生徒がこれだけいるという実情を踏まえ、募集停止はせめて1年先送りにして様子を見てから判断してほしい」という声が多く上がっています。

改革推進計画により、6学区では昨年の入試において周辺の複数の定時制高校が募集停止になったこともあり、墨田・江東・江戸川地域にある10校の定時制の二次募集に応募者が殺到して65名の不合格者が生まれ、結果的に高校進学をあきらめた例もあります。このまま平成19年度までに中野工定・農芸定をのぞく8校全ての募集停止を強行するならば、3学区、および周辺の定時制高校で同様の問題が生ずる可能性は極めて高いと思われます。同じ轍を踏まないためにも、募集停止時期の延期や教員定数の弾力的運用など、生徒受け入れ枠確保のため十分な対応措置を講ずるよう陳情いたします。

鷺宮高校定時制教職員有志一同

代表 海沼博幸・内山健三

氏名	住所	印

\* 本人自筆の場合は「印」は不要です。代理署名した場合に「押印」して下さい。